



義太夫協会会報  
第102号

平成28年1月1日

一般社団法人 義太夫協会 発行

〒104-0045

東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル17F

Tel. 03(3541)5471

Fax. 03(3546)2334

http://www.gidayu.or.jp

かたりののおもしろさを  
どう伝えるか

国際基督教大学准教授

矢内賢二

大学の講義では十九はたちの学生に浄瑠璃について説明しないといけないのですが、「フシをつける」、あるいは「かたる」というのが具体的にどういう行為なのか、彼らにはいまひとつピンとこないらしいのです。「唄とは違うものですか」「ナレーションのことですか」「絵本の読み聞かせみたいなのではないですか」と『二十の扉』みたいな質問で責められてはいるのですが、考えてみればなるほど、彼らは「唄」は日常的に聞いていても、「フシの付いた日本語」や「かたり」を聞いたことがないのでしよう。

フシといえば、明治生まれの私の祖母は、新聞や薬の効能書きなどをよく声を出して読み上げていましたが、それはいわゆる朗読・音

読ではなく、独特のフシが付いていました。「帯屋」の儀兵衛が「えー、伊勢まーいりーのー、下向おーみーちー」と手紙を読む、あの要領です。それからまだ私が幼稚園に通っている頃までは、大きな乳母車のような車に魚をのせて、漁師町から行商にやつて来るおばさんがいました。城下町の細い通りを一直線に突き抜けていく、「えー、〇〇〇〇（魚の名前だったろうが不明）いりまへんでええー」という甲高いピンと張り切った売り声は、子供が聞いても実に見事な調子とフシ回しでした。

と、自分の記憶に残る「フシ」を引き合いに出したり、落語や講談も聞かせたりしながら、「いわば朗読と唄のあいだみたいなもので、か言葉は意味だけで成立しているわけではなくて」とか「同じこと言っても声の高さやリズムが違うだけで印象が全然違うでしょ？」とか色々言ってみるのですが、われながらはなはだ歯切れが悪い。どうも彼らの多くは、言葉に音韻的・音楽的快楽を感じるといふ発想がなく、とにかく言葉の意味やストーリーを理解するのがゴール、という入試国語的強迫観念か

ら抜け出せていないようなのです。だからまず、あらずじや人物の設定をこと細かに説明して、理屈で納得させてから義太夫節を聞かせると、「ふむふむ、フシというものを付けて三味線とともにかたることによつて、ただ文章を読むよりもずっとドラマチックに物語を伝えようとしているのであるな」とひとまず納得してくれるようです。彼らは「おもしろい物語」にはきちんとして反応するのですが、それが「フシを付けてかたられる」ことに慣れていないのですね。

そんな彼らが義太夫節に出会うことなく、かうかと生きていくのだとしたら実にもったいない。思わずゴクリと唾を飲むような生々しい人間たちの物語を、時に繊細に、時に豪快に、官能的な声と三味線で聞かせてくれるという贅沢な芸。これが彼らの柔らかな感受性のアンテナにきちんと捕捉されれば、大袈裟なようですが、彼らの人生にとつても、また義太夫節の未来にとつても、何か新しい視界が開けるような気がして、今日も教室でモゴモゴと喋り続けているのです。



やない・けんじ  
昭和四五年徳島生まれ。国立劇場プロデューサー等を経て、国際基督教大学准教授。専門は歌舞伎を中心とする芸能史・芸能論。著書に『明治キワモノ歌舞伎 空飛ぶ五代目菊五郎』（白水社）など。

# 犬猫供養塔八十年 石灯笼に宝珠が付きました！

水野悠子

昨年の祖先祭（十月十二日 於回向院）で、建立後八十年となる「犬猫供養塔」の来歴をお話しさせて頂きました。三味線のために命を捧げる犬と猫（皮）、象（バチ）、水牛（三味線の駒）四者の弔魂慰霊のため供養塔を、という設立趣意書が公表されたのは昭和十年（1935）八月のことでした。その年の暮には早くも開眼式が行われていますが、三味線の糸になる蚕も供養すべきであろうと、後に「糸塚」が建てられることになりました。そのいきさつを、豊澤猿三郎師が実に面白く書き残しておられます。

（略）早速石屋の主人に、お蚕の繭形に糸塚と彫って飾っていただきたい、就ては石代・デザイン料・彫刻代を伺ったところ、意外意外、実に意外、石屋さんが「わっしの名は糸塚三次郎てんだ。糸塚の三ちゃん毎日大勢の人に拜まれりや嬉しいよ。金なんか要らねーよ」と、回向院様のお地代も無償、原画の大森画伯、題字の浪六先生も御寄進、糸塚の三ちゃん親方も奉仕。（略）義太夫様のお墓の前で、犬猫さんもお蚕さんもほんとうに喜んでおられますよ。

「義太夫協会会報」第三十三号

「祖先祭余話」より

供養塔の最上部に「三味観世音」が祀られています。その背面の文字「千葉船橋町 石國号 金子平蔵刻」を頼りにネット検索したところ、船橋市の石国工業株式会社がヒットしました。代表取締役の金子健氏によると、金子平蔵さんは二代目で、御自分は五代目とのこと。そして石灯笼の宝珠が欠落しているから回向院そばの青木石材興業に相談するといいと助言して下さったのです。それまで全く気づかなかったのですが、開眼式の写真には写っていた宝珠が確かに無くなっています。



どの位の費用がかかるものなのか、恐る恐る青木石材さんにお尋ねすると、類似の石を探してみると、当面は色の差が目立つかもしれない、それでよければと算出された見積額は約五万円。しかし、義太夫協会にその余裕はなさそうです。そこで、宝珠をつけた方が良いか祖先祭でお諮りして御寄付を募ろうか、イヤその前に、いつも義太夫協会を御支援下さる河野哲丸先生に、奉加帳の筆頭をお願いしてみよう、そう考えて御相談に上がったところ、意外意外、実に意外

「うち（自宅）にあるよ」とおっしゃるので。???事情が飲み込めない私に「謂われは不明だが、不自然に庭に転がっていた古い宝珠がある。あげるから取りにおいで」という訳で、素材も大ききも年季の入りに具合もぴったりの宝珠を御寄進頂けることになりました。

問題は青木石材さんです。事情をお伝えし、とり付けだけをお願い出来ないか、就てはそのお代は、と何うと「上司と相談して」との御返答。これが祖先祭の三日前のことでした。その晩に頂いたお電話が、意外意外、実に意外「このたびは無償でつけさせて頂きます」という誠に有難いお申し出だったので。犬猫さん、観音さま、御先祖さまのお導きでしょうか。供養塔、糸塚、石灯笼と重なる御縁に驚くばかりです。



かくして、十月二六日、供養塔の石灯笼に古くて新しい宝珠が付きました！デザインこそ異なりますが、昔からそこにあつたかのようにしつくりと納まっています。石国工業様、河野哲丸先生、青木石材興業様、そして諸々便宜を図って下さった回向院様、本当に有難うございました。

（女流義太夫研究家）

(2016.1.1)

神無月公演 「阿古屋」の時めき

池田弘一



十月二二日の公演では駒之助さんが、「阿古屋の琴責め」を七十分かけて実に丁寧に完璧な語りを聞かせる。ある識者から「師の語りは言葉がはつきりと伝わってくる」という便りがあった。「言葉がよくわかる」ということは基本中の基本だが容易なことではない。阿古屋の胸の中にあるものが、しみじみと聴く者の胸にとどいた語りであった。津賀寿さん、三寿々さんの三味線、それに川瀬露秋さんの三曲とあいまって、近年出色の演奏であり、多く来会くださった邦楽界のお歴々方にも満足を得られたと信じる。

それに今回は異例のこころみとして、長唄「景清」の演奏に振りそえた。長唄東音会の子部の人々の細棹での生き生きとした演奏は義太夫節の語りとは異なる趣を聞かせた。長唄の「景

清」は四代目歌右衛門が天保期に見せた八変化所作事の一つで、詞章も曲節も時代の好みを反映し、洒落のめしたものだ。それに振りが伝承されていらない。それを勝見有紀さんが新たに振りを付け、大きく踊った。前半はかむろを相手に景清とのなれそめ、景清への思い、後半はがらりと変わって「大仏供養」からとつた立ち回り。扱いにくい素材をよく生かしてくれた。景清のいないところでその思いを三曲にして語る阿古屋。阿古屋のいないところで、その思いを唄う景清。それを「恋綾織」と名付けた次第。



本牧亭を聴く会その7を開催して

SEIBI工房 鳥居 誠



「本牧亭を聴く会」も、皆様のおかげさまで去る九月二八日に第七回目を開催することが出来た。

今回お聴きいただいた竹本駒龍／鶴澤駒登久による「鮮屋の段」は昭和五十四年の録音。これまでにご紹介した四十年代の録音に比べると比

較的最近のもので改築後の本牧亭での演奏。記録もオープンテープではなくカセットテープで収録された音源である。当時「一時間を超す熱演に場内は圧倒された」と絶賛された演奏なだけに、是非多くの方にお聴きいただきたいという意図でこの音源を選ばせていただいた。

これまでの六回は主に「重鎮」と呼ばれた師匠方の演奏であったが、今回のものは当時の中堅（最後の挨拶では若手と呼ばれていた）であった駒龍・駒登久によるもの。しかも「鮮屋」



水野氏は前から2列目の左から3番目

という大作で演奏時間も七五分。もちろんそれだけの価値のある熱演なのだが、正直どれだけの方が会場に足を運んでいただけるかとても不安であった。しかし思いの外多くの方にご来場いただき感謝の念に堪えない。

まだまだお聴かせしたい音源も多く、今後もそれらの音源を未来の女流義太夫のための一つの指針としてご紹介して行ければと願っている。

### 水野悠子氏が文化庁長官表彰受彰

水野悠子氏（女流義太夫研究家・元義太夫協会事務局員）が、永年にわたり、義太夫節の普及啓発及び後継者育成に努めるとともに、「娘義太夫」の分野の研究を推進するなど、「義太夫節」の保存・伝承に寄与し、我が国の文化財保護に多大な貢献をしてきた功績により、平成二十七年文化庁長官表彰を受彰されました。

### 「三味線物語」公演実施

（平成二十七年文化芸術による子供の育成事業）「三味線物語」の公演が、二六年度に続いて実施され、義太夫協会から竹本越若・鶴澤賀寿が参加しました。

中国の大三弦が沖繩に渡って三線になり、更に長唄・義太夫・津軽と様々な三味線に発展してきた歴史を、実物の比較や演奏を交えて演奏者自らが解説する「三味線おもしろトーク」は、二年目とあって息もびつたり。事前ワークショップから子供たちが練習してきた津軽三味線の発表や各演者の演奏を経て、最後は全員参加の「花は咲く」。子供たちの合唱に、学校によって器楽演奏が入ったり振りがついていたり、趣向を凝らしたパフォーマンスに舞台上の出演者も大感激。一月末には、更に三公演が予定されています。

### 義太夫教室 実践コース開講中！

義太夫教室第六八期は昨年九月より実践コースに入り、木曜日の夜に語り一時間、三味線一時間の実技を、のべ二名の生徒さんが受講中です。

内容は、語りが「木遣音頭の段」と「裏門の段」（竹本越孝）、「野崎村の段」（竹本朝輝）、

三味線（鶴澤津賀寿）はメリヤスのお稽古。三月十二日（土）の発表会に向け、語りは個人で担当する箇所を決めての通し稽古に入りました。三味線も、太い撥や糸張りの高さに苦戦しつつも、基本を大切に、息の合った合奏を目指して特訓中。本番では、本格的な衣裳を身につけ、晴れ舞台を楽しんでくださいね。

竹本駒之助師の客員教授就任と京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター公開講座「義太夫節の精華 竹本駒之助九段目を語る」公演レポート

### 神津武男

京都市立芸術大学（京都市西京区）の日本伝統音楽研究センターは、二〇〇〇年四月開設の研究機関である。当該センターHPによると「日本の伝統音楽を総合的に研究する国内唯一の公的研究機関であり、日本伝統音楽の研究を主たる目的としつつ、その成果をさまざまな形で発信し、日本伝統文化の一環として、その振興に貢献しよう」と努めています。」と紹介されている。

同学教授・山田智恵子氏のご発案と承るが、研究者でなく、実演家を招くことが提案され、当センター内での合議・賛成を得て、初めて当センター発議の客員教授として就任されたのが、竹本駒之助師である。通常の講義・授

業に替えて、公開講座での義太夫節演奏会を行おうというのがその任務であった。

写真は九月三〇日(水) 祇園甲部歌舞練場



で行なわれた委嘱状授与式の様子。同センター長・時田アリソン氏から、委嘱状を手渡される駒之助師。

公演そのものは、十一月二八日(土)午後一時半〜四時、京都市男女共同参画センター「ウ

イングス京都」(京都市中京区) イベントホールで開催された。

時田アリソン氏の開催挨拶、山田智恵子氏の解説、神津の講演があつて、いよいよ『仮名手本忠臣蔵』九段目切の「山科隠家の段」の演奏で、三味線は鶴澤津賀寿さん。

駒之助さん津賀寿さんの「山科隠家」丸一段の演奏は、昨年二月・横浜K A A T神奈川芸術劇場での二日間について三回目となる。

非公開の少人数での演奏はあつたようだが、京都の地での素浄瑠璃会は、駒之助師にとって初めてであるとのこと。故・四代竹本越路大夫師のお奨めもあつたが実現しなかつた、との想い出を語られた姿が印象的であつた。

## NHK「にっぽんの芸能」 忠臣蔵の世界 放映

十二月十一日(金) 二二時より二二時五十分まで、NHK「にっぽんの芸能」(Eテレ)「忠臣蔵の世界」にて、女流義太夫の演奏による『仮名手本忠臣蔵』八段目「道行旅路の嫁入」が放映されました(再放送は十四日五時より五時五十分まで)。この番組は赤穂浪士の討ち入りの日に因んだテーマで、収録は十一月十九日にNHKのスタジオで行われました。



2015年11月19日 NHK 101 スタジオ

浄瑠璃の道行の詞章に伴い、スタジオの背景も手動で移動するという演出だったため、

収録当日に行われたリハーサルでは背景移動のリハーサルも兼ねて行われました。この撮影のために製作された背景は、大道具さんにとつて一番の

長さの背景だったそうです。日頃の舞台とは違ったスタジオ録画ならではの貴重な経験となりました。

### 【出演】

浄瑠璃 竹本駒之助・竹本綾之助・竹本土佐子・竹本越孝・竹本越京  
三味線 鶴澤津賀寿・鶴澤寛也・鶴澤三寿々・鶴澤津賀榮・鶴澤津賀花

### 初心者のための

### 三味線音楽鑑賞会開催

さる十一月十七日に国立劇場伝統芸能情報館(三階)レクチャール室にて、「初心者のための三味線音楽鑑賞会」の第二回目、女流義太夫が行われました。こちらは(公財)清栄会の主催で四回連続の講座、七〇数名の受講生の方々が熱心に原道生先生(明治大学名誉教授・義太夫協会監事)の講義と、竹本越孝・鶴澤寛也・鶴澤津賀花の演奏による「団子売」、越孝・寛也による「絵本太功記 尼ヶ崎の段(後半)」をお聴きでした。

### 花組芝居「毛皮のマリー」

二〇一五年十二月十六日〜二三日、あうるすぽっとで、花組芝居の実験浄瑠璃劇「毛皮のマ

(2016.1.1)

リー」が上演されました。ここに、義太夫部分の作曲と、録音で参加させていただきました。

花組芝居とは、一九九一年、博品館劇場で「怪誕身毒丸」上演の折、故竹本朝重師匠に連れて行っていただいて、生で「合邦」の一部分を演奏させていただいたのが、出会いでした。

地方公演は録音だったのですが、なるべく生でやりたい、という役者さんの希望もあって、博品館での十三日間の公演中、急遽九州の旅も同行が決定しました。朝重師匠は、肝臓をお悪くされてその十数年後、亡くなりましたが、この旅の時、今思えば、すでにご病気の前兆があったのか、リハーサル中に軽い発作を起こされたのですが、本番はお元気に語られ、その夜には劇団の皆と一緒に屋台にラーメンを食べに行ったりしたのも、懐かしい思い出です。

「毛皮のマリー」は、寺山修司氏の名作で、美輪明宏氏の名演で知られています。寺山修司生誕八〇年の演劇祭に参加だったのですが、花組芝居の座長で演出も出演もしている加納幸和さんは、そうとは知らずに「毛皮のマリー」をやりたい、と思っていたそうです。一昨年の夏でしたか、花組の芝居を見に行った時、加納さんから「今度、毛皮のマリーをやりたいと思つて、真ん中に寺山さんのをちよつと義太夫風にボクがアレンジしたいと思つてるんだけど、やつてもらえますか？」と言われて「もちろん私でお役に立てるなら！」とお返事したのですが、いざ台本が来たら、いきなり表紙に「実験浄瑠璃劇」とあり、全編に短いながら義太夫がちりばめられていてびっくり。早速台本を持ち歩き、

電車の中でどんどん作っていました。少しずつ録音してデータで、劇団、演出家に送り、なおし、録音を繰り返します。優秀な演出助手さんが You Tube に稽古場映像をアップ。世の中、進んでいます。台本からは想像できなかった動きが加わったり、芝居が形になっていく過程を見せていただくのは、責任もあります。が、ワクワクする経験でした。

台本には、横文字はもちろん、かなりきわどい単語が多く、加納さんたらあ、と思つて寺山さんの台本を読んだら、それは寺山さんの書いたままで：この歌詞を、太夫さんにお願ひするのにドキドキしましたが、朝重師匠の門弟であり、一九九一年の公演でも、私が出られなかった回に三味線を弾いて下さった竹本朝輝さんに台本をお渡しすると、「人間、そういうものなんだから」と、ちつとも嫌がらずに語つて下さいました。が、横文字や現代語には「これは手強いよお」とおっしゃりながら、すごく研究して下さいました。改めて、朝輝さんに感謝します。

(鶴澤津賀寿)



加納さんと

## 「道行四景」

国立劇場制作部伝統芸能課  
石橋幹己

国立劇場「道行四景」は、十月十日小劇場で開催された。一中節・宮園節・義太夫節・清元節から、道行の名作を四番。各分野の人間国宝をはじめとする実力派の演奏者が集い、絢爛豪華な舞台が披露された。大勢のお客様にもご来場賜り、満席のうちにて無事終了。これも偏に出演者各位の御蔭と存じ、この場をお借りし感謝申し上げます。

さて義太夫節は、本公演のうち三番目での上演。浄瑠璃Ⅱ竹本駒之助・竹本綾之助・竹本土佐子、三味線Ⅱ鶴澤津賀寿・鶴澤寛也・鶴澤津賀花。当代随一の顔触れである。演目は「道行初音旅」。満開の桜を背景に、静と忠信が主従道行を果たすという筋。道行の三大名作の一つにも数えられ、華麗な旋律の冴える人気曲だ。

演奏は、優美な語りと秀麗な三味線の音色が鼓の調べのように巧みに綾なし、たまらなく美しかった。曲の調子も変化に富み、義太夫節の醍醐味を十分に堪能することができた。お客様からも、素晴らしい演奏だった、本公演のなかで一番華やかだったというご好評の言葉をいくつも聞かせいただき、制作に携わらせて頂いた立場としても、とても嬉しい。

(2016.1.1)

今回の公演、時代物と世話物が交互に上演されるような番組立てになっている。一中節と義太夫節が時代物、宮園節と清元節が世話物。一部を除き、時代物の道行は明るい曲が多く、世話物の道行には暗い曲が多い。河竹登志夫氏はこれを、昼の道行と夜の道行と区別していたが、それぞれの特色がよく表されるよう構成した。そのため、義太夫節では本曲を通じて、道行の



明るい面を感じていただきたかったのだが、いかがだったろうか。次は本曲の舞台写真。桜のパネルを背景に、鮮やかな袴袴を身に纏った太夫三味線（駒之助師匠、有難うございま

重さを発散させるような、何とも晴れやかな舞台ではあるまいか。今にも清爽な音色が響き渡り、静と忠信が踊り出しそうな情景である。道行の魅力。それは叙情と叙景の織り成す美しき。登場人物の「情」を語る一方で、場面の「景」も鮮やかに描き出す。両者の絶妙な調和があつてこそ光る輝き。道行は奥が深い。再演を望む声もある。また義太夫節の道行をお聴かせ願いたい。

## 「第十三回

## はなやぐらの会」開催

昨年十月十一日（日）紀尾井小ホールにて『第十三回はなやぐらの会』が行われました。今回は橋本源氏を聴くとして、作家橋本治さんによる書き下ろし新作「源氏物語 玉鬘」旅路の段より長谷寺の段（鶴澤寛也作曲）を、竹本綾之助、竹本越孝、鶴澤寛也、鶴澤津賀花の演奏でお楽しみいただきました。橋本治さんのお話や、演奏後には矢内裕子さん（ライター・編集者）の司会、橋本さんの講評（寛也も参加）も行われ、好評を博しました。

## 『義太夫を聴こう』発売



昨年十月に河出書房新社より、橋本治著『義太夫を聴こう』が刊行されました。二〇〇八年、鶴澤寛也・鶴澤駒治共催の「道行の会」の時の橋本治さんのお話を元に書き下ろされたも

ので、橋本さんと寛也の対談なども収録されています。義太夫三大道行といわれる「道行旅路の嫁入」「道行初音旅」「道行恋芋環」の橋本流解説は必読です。どうぞお手にとつてご覧下さい。

## 「小江戸文楽」開催

小江戸とちぎ会代表世話人

青木良一

この度は、小江戸とちぎ会創立二十周年を記念して、奈佐原文楽座様と（一社）義太夫協会様のご協力のもと『小江戸文楽』（二〇一五年十一月八日 栃木市文化会館 壺坂霊験記）を開催することが出来ました。竹本越孝さん、鶴澤寛也さん、鶴澤弥々さんの素晴らしい演奏がとても印象的でした。二十年前、川越市と佐原市（現在の香取市）を誘い、始めた小江戸サミットも二〇一六年一月三〇日の川越大会で二〇周年となります。当初は、舟運、蔵の街、人形山車祭りの三つのテーマで始まった小江戸も今や江戸文化の追求にまで歩を進めております。この小江戸文楽を栃木市の文化事業の目玉にしていく所存です。（一社）義太夫協会様には、今後とも更なるご協力を宜しくお願い申し上げます。

ほんに気がメ〜リヤス

(十六杯目)

鶴澤 慎治

皆様、明けましておめでとうございます。例によって多忙につき、夏の会報はお休みさせて頂きましたが、昨年は例年に増して実りの多い年でした。

まず一つは、既報ではありますが、義太夫協会主催の演奏会に、同じ義太夫教室の大先輩で、しかも義太夫三味線が一番最初の手ほどきの師でもある弥乃太夫師と共に出演させて頂きましたこと、そしていま一つは、数々の新作歌舞伎の作曲を手掛けさせて頂けたことです。

常々「現在のテレビドラマや映画が、アニメや漫画を原作にして作品化するのには、三百年前に行われていた、人形浄瑠璃の歌舞伎化と理屈は同じ」と申しておりますが、この二十一世紀初頭において「リアルタイムで流行っている漫画・絵本」や「人気作家の脚本」が歌舞伎化される、その現場に立ち会うことができたのは、くそしてその中で、普段やっている古典というものを、作品として、そして正面から立ち向かい、咀嚼し、乗り越えるべき課題としてとらえなおすことができたのは、くそ実に意義深いことであるように思います。

六本木歌舞伎「地球投五郎宇宙荒事」では、宮藤官九郎さんのぶつとんだ脚本の、およそ義太夫の文言とは思えないような文章を節付けするチャンスを頂きました。

ご覧になった方はお分かりになるかもしれませんが、この作品はスターウォーズの壮大なパクリというかパロディなので、まずは本行：じゃなかった、原作映画を全部視聴することから始めました。

新作歌舞伎で義太夫が使われる場合「既存の義太夫狂言の名作の中の、演技と節付との素晴らしいマリアージュの流用・替え歌・アレンジ」ということが多い、というか、それが一番効果的なのですが、宮藤さんの脚本を見ると、どうもそういう部分（またはそういう風でできそうなところ）がほとんどない：例えば、スターウォーズの各編冒頭で、音楽に乗って、それまでの話の経緯が字幕になって宇宙空間に流れていく：みたいなのを模したと思われる文言が竹本の担当になっている訳です。

スターウォーズの音楽を作曲しているジョン・ウィリアムズという方は、「未知との遭遇」「スタートレック」など、SF作品で多くの仕事をされているのですが、その作風というかエッセンスを、上手いこと三味線に取り入れられないかと検討した結果、我々が何かしら宇宙とか、SFっぽい、と感じるのは「完全音程（四度・五度）」と「三連符」であろう、という結論に達し、これは「シャラン」とか「スエテ」でお馴染みですから、あちらこちらに、おかしくない程度に使ってみました。

また、宮藤さんの好みが（違ってたらごめんなさい）七〇〜八〇年代に流行ったもののような気がするので、その頃の、割と汗臭いアニメ

のオープニングや予告をイメージしたものを組み合わせたところ、単なるオープニングや予告だけでなく、芝居もできちゃう竹本になりました（笑）。

そんな中で、ちょこちょこ、とでも、古典の手法でかつちりやつておくところを作っておくと、ぐつと芝居が締まるといふのはあるように、「地球〜」では、海老蔵さんのご提案で物語的演出部分が追加されました。

また、スーパー歌舞伎II「ワンピース」では、猿之助さんのご提案で、ほんの一瞬、録音ではありますが、「歌舞伎俳優ではない方のノリ台詞」のお手伝いをさせて頂きました。

「やりたいこと」と「やれること」の距離を限りなくゼロに保つための、あらゆるチャレンジでの努力は、およそパフォーマンスを生業とする方の課題であろうと思いますが、時々、自分の常識では思いつかないような出会いがあると、飛躍のチャンスになるように思いました。



そんなわけで今回は、スターウォーズにちなみ、星の写真をご覧くださいませ。



協会の動き

平成二七年七月〜十二月  
主催・共催公演

女流義太夫演奏会

七月二十七日(月) 国立演芸場

※ 義太夫節保存会主催  
若手勉強会

八月十八日(火) お江戸日本橋亭

九月二〇日(日) お江戸日本橋亭

十月二二日(木) 国立演芸場

十一月二〇日(水) お江戸日本橋亭

十二月二〇日(日) 紀尾井小ホール

【普及事業】

◇東京大学教育学部附属中等教育学校

課題別学習への講師派遣

五月十九日〜平成二八年二月二三日

講師・竹本土佐子・鶴澤津賀花

◇キッズ伝統芸能体験

1 DAY いろいろ体験

八月二日(火) 江東区文化センター

八月二五日(木) 立川市民会館

太棹三味線体験

講師 鶴澤津賀花・鶴澤賀寿

◇義太夫・三味線 一日体験教室

八月二二日(土) 豊川稲荷文化会館

講師 竹本越孝・鶴澤津賀寿

◇第六八期義太夫教室 実践コース(前期)

九月三日〜十二月十七日(週一日・土曜)

◇「芸術文化による子供のための育成事業」  
豊川稲荷文化会館

学校巡回公演「三味線物語」

(文化庁主催)

九月二九日〜十月一日、十月七日

香川・小学校三校、愛媛・小学校一校

◇益田糸あやつり人形保持者会

九月十二、十三日、十月二四、二五日、

十一月二一、二二日

義太夫節講習への講師派遣

講師 竹本越孝・鶴澤駒治

■正会員のその他の主な活動■

平成二七年七月〜十二月

《定期公演》

「じよぎ」公演 お江戸上野広小路亭

七月、九月、十一月の一、二日

「ぎだゆう座」公演 お江戸上野広小路亭

八月、十月、十二月の一、二日

《その他の公演》

第三回花のように香れ 女流義太夫

八月三〇日(日)

蕨市立文化ホールくるる

ココの会主催

邦楽コンサート 越中の指揮

九月六日(火) 富山県高岡文化ホール

邦楽実演家団体連絡会議主催

江戸邦楽の風景―装い―

九月十五日(火) 紀尾井小ホール

新日鉄住金文化財団主催

相撲と娯楽 江戸伝統鑑賞の夕べ

九月十五日(火)

白山市松任学習センターコンサートホール

白山市・白山市教育委員会主催

道行四景

十月十日(土)

国立小劇場

第四回花のように香れ 女流義太夫

十二月十三日(日)

蕨市立文化ホールくるる

ココの会主催

粋でお洒落な女義ライブ 其の貳

十二月十九日(土)

スタジオ・フォー巢鴨

女流義太夫を応援する会有志一同主催

《正会員主催公演》 (義太夫協会後援)

女流義太夫スペシャル・ライブ④

八月十四日(金)・十五日(土)

主催・鶴澤津賀花

ふたり勝頼

十月十日(土)

主催・竹本越若

京の会

十月十日(土)

主催・竹本越京

第十三回はなやぐらの会

主催・鶴澤寛也

土佐恵の会

十月十一日(日) 紀尾井小ホール

主催・竹本土佐恵

十一月三日(火) 内幸町ホール

涙と笑い―一谷嫩軍記より―

主催・竹本越若、竹本越里

十一月二八日(土)

浅草公会堂第二集會室

協会の今後の予定

平成二八年一月

【運営】

平成二七年度第六回理事会 三月中旬予定  
平成二八年度第一回理事会 五月中旬予定  
平成二八年度通常総会・役員選挙 五月下旬予定

平成二八年度第二回理事会 総会当日

【公演事業】

主催・共催公演 ◎は昼公演  
女流義太夫演奏会(義太夫協会主催)

一月二〇日(水) お江戸日本橋亭

※二月二四日(水) 国立演芸場

※義太夫節保存会主催 研修発表会

◎三月二〇日(日) お江戸日本橋亭

◎四月二九日(金・祝) 紀尾井小ホール

五月二〇日(金) お江戸日本橋亭

※六月二四日(金) 紀尾井小ホール

※義太夫節保存会主催 若手勉強会

七月二〇日(水) お江戸日本橋亭

第四六回邦楽演奏会

三月五日(土) 国立小劇場

【普及事業】

◇義太夫・三味線 一日体験教室

二月十三日(土) 豊川稲荷文化会館

講師 竹本佳之助・鶴澤弥吉

◇第六八期義太夫教室卒業発表会

三月十二日(土) 深川江戸資料館小劇場

◇「芸術文化による子供のための育成事業」

学校巡回公演「三味線物語」(文化庁主催)

一月二五日～二七日

兵庫・小中学校各二校

香川・中学校一校

◇第六九期義太夫教室 入門コース

五月二六日～七月二一日(木・土)

講師 講義・竹本弥乃太夫他

語り・竹本土佐子・竹本越若

三味線・鶴澤三寿々々

【人材育成】

プロ養成二カ年研修プロジェクト

平成二八年一月より随時募集開始

■その他の今後の主な活動

平成二八年一月

《定期公演》

「じよぎ」公演 奇数月一、二日

「ぎだゆう座」公演 偶数月一、二日

「ぎだゆう座」新春公演 お江戸上野広小路亭

一月九日(土) 十三時三〇分

お江戸両国亭

《その他の公演》

弓弦葉の会 一月十日(日) 十三時

女流義太夫スペシャルライブ'15 紀尾井小ホール

一月十五・十六日 ザ・グリー

素浄瑠璃の会 二月三日(水) 十九時

お江戸日本橋亭

第五回花のように香れ 女流義太夫

三月二一日(月・祝) 十四時

蕨市立文化ホールくるる

第十四回はなやぐらの会

四月十日(日) 十三時

津賀寿の会 五月二七日(金) 紀尾井小ホール

三越劇場

寄付・寄贈(平成二七年七月～十二月)

佐佐木鍾三郎様 二十万円

日本素義会様 五万円

石山岩男様 一万円

桂伸乃介様 一万円 \*見台修復の一助として

河野哲丸様 回向院犬猫供養塔石灯籠の宝珠

青木石材店 回向院犬猫供養塔

渡部洋子様 石灯籠宝珠取付一式

義太夫協会所蔵資料電子化作業一式

「浄瑠璃雑誌」昭和十五～十七年度

「浄瑠璃月報」昭和十七年度

「書相15・特集夢二追憶」

昭和十一年

(株)エノア総合計画事務所様

中古パソコン二台

誠に有難うございました。

※紙面の都合により、本号では「シリーズ人物伝」を休載致しました。

《編集後記》・平成二八年も目出たく開け

ました。芸能を楽しむことのできる平和な世

の中がいつまでも続きますよう。本年もどう

ぞよろしくお願い申し上げます。編集部会

の

の

の

の

の

の

おやつはK日山が筆頭、二番手はK村家のパ  
ンです。

・本紙二頁掲載の犬猫供養塔の宝珠の設置に  
あたり、石国工業様、河野哲丸先生、青木石  
材興業様、回向院様、皆様本当にありがとうございます。

会報編集委員／鶴澤寛也（編集長）

・鶴澤賀寿・鶴澤三寿々

編集協力／（一社）義太夫協会 事務局

### 掲載広告 募集！

義太夫協会では、会報に掲載する広告を募集  
しております。毎号の継続的な掲載ばかりでな  
く、一回限りの掲載でも結構です。お気軽に義  
太夫協会までお問い合わせ下さい。

### ぎだゆう座初春公演

平成二八年一月九日（土）

開演一時半・開場一時

お江戸両国亭 入場料 千五百円

団子売 佳之助・京之助・駒佳

賀寿・津賀花

触れ太鼓 (財) 日本相撲協会

相撲甚句 両国相撲甚句会

野崎村 越京 三寿々・津賀花

開演前に清酒の振る舞いを致します。

ご来場をお待ち申し上げております。

### 義太夫協会 会員募集！

義太夫協会では、義太夫節とその演奏家を  
応援していただく為に、広く皆様方のご支援  
をお願いしております。皆様からのご支援を  
もとに、より一層、義太夫節の振興・普及、  
将来を担う演奏家の育成に力を注いでまいり  
ますので、どうぞご入会下さいますようご案  
内申し上げます。

会員特典・毎月の公演の案内、会報など義太  
夫節の情報をお届けいたします。協会取り扱  
い三味線備品・CDなどが割引価格にてお求  
めいただけます。

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、  
制作修理 その他、各流三味線及び付属品  
の御注文承ります。



# きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14

TEL/FAX 03-3466-2156

P.H.S 070-5457-5687

kimura-wanoshirabe@nifty.com

## 義太夫協会取り扱いCD



新着！「媼山姥 廓嘶の段」 定価 3,240円

竹本駒之助 鶴澤津賀寿 鶴澤寛也 平成26年10月国立演芸場公演ライブ録音

好評販売中「近頃河原の達引 堀川猿廻しの段」 定価 3,024円

竹本駒之助 鶴澤津賀寿 鶴澤寛也 平成21年7月国立演芸場ライブ録音

<プレス盤> 発売元：日本アコースティックレコーズ

義太夫協会音源シリーズ \*義太夫協会でのみの販売です\*

「心中紙屋治兵衛 河庄の段」 竹本土佐廣 鶴澤友路 定価 2,160円 <プレス盤>

「本牧亭公演記録音源デジタル化音源 全8タイトル」 定価 1,500円 <CD-R盤>

壺坂観音霊験記・新版歌祭文・絵本太功記・御所桜堀河夜討/伊賀越道中双六 他

<全て税込み・送料別 詳しくは義太夫協会 03-3541-5471へお問い合わせください>

# 永谷 謹賀新年

永谷商事株式会社 代表取締役 永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-20-1 tel. 0422-21-1711

お江戸日本橋亭      お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭      新宿永谷ホール



地域と共に歩む 不動産賃貸業

## 株式会社 オータカ

代表取締役	渡 辺 康 成
常務取締役	高 山 早 苗
専務取締役	渡 辺 貞 穂

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町 2-5-31  
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684